

産業建設分科会会議録

日時 令和3年11月5日（金曜日）

午前10時20分開会 午前10時35分閉会

場所 第1委員会室

日程

1 開会

2 委員長挨拶

3 協議・説明事項

付託された議案の審査 議案第59号 令和3年度土浦市一般会計補正予算（第9回）

4 閉会

出席委員（8名）

委員長 平石勝司

副委員長 柏村忠志

委員 内田卓男

委員 寺内充

委員 矢口清

委員 柳澤明

委員 小坂博

委員 勝田達也

欠席委員（0名）

説明のため出席した者（3名）

副市長 栗原 正夫

産業経済部長 佐藤 亨

商工観光課長 羽成 健之

傍聴者 0名

事務局職員出席者 松本 裕司

○平石委員長 ただ今から予算決算委員会・産業建設分科会を開催いたします。協議事

項に入ります。議案第59号令和3年度土浦市一般会計補正予算（第9回）歳出中第6款 商工費について、執行部より説明願います。

○羽成商工観光課長 議案第59号令和3年度土浦市一般会計補正予算（第9回）について、御説明いたします。議案書の10ページをお願いします。土浦市事業者支援一時金支給事業の拡充です。本事業は、緊急事態宣言の影響緩和を図り、厳しい経営状況にある事業者の事業継続支援を目的として、茨城県と協調した一時金の支給を行っているものでして、この一時金の支給につきましては、営業時間短縮要請に協力した飲食店と直接取引がある惣菜などの食品加工・製造、酒類の卸、流通関連、清掃などのサービス事業者あるいは、外出自粛要請によって直接的な影響を受けたホテル・旅館などの宿泊事業者や旅行者、交通事業者、文化・娯楽をはじめ、スポーツ関連など、緊急事態宣言の影響を受け売上が大きく減少した様々な業種を対象としており、本市では、茨城県における支給額1事業者当たり一律20万円の2分の1、10万円を上乗せ支給しているものです。これまで、緊急事態宣言の出た1、2月分、4月から6月分と2回にわたり一時金を支給してきたところです。茨城県では、これまで一律20万円としていた一時金を、年間売上高に応じた算出方法に改めました。酒類枠という特別枠を設け、特にダメージの大きい売上高の少ない酒類販売業者への支援を図れるようにしたところです。このたび、一般枠・酒類枠それぞれの支出見込み額の合計から現在の予算残額を差し引いた不足額2,750万円の増額補正をお願いするものです。なお、このうち2,000万円につきましては、地方創生臨時交付金（事業者支援分）の留保分を財源とさせていただくものです。説明は、以上です。よろしく願いいたします。

○平石委員長 ありがとうございます。この件について、御意見、御質問はありますか。

○内田委員 この酒類枠は、一般枠に上積みしてもらえるのか。

○羽成商工観光課長 こちらは、一般枠と酒類枠のいずれかとうこととなります。県のほうで、申請を受ける際に、事業者によりな枠で御案内しているところがございます。

○内田委員 売上げの多い所は多くなるけど、小さいところは変わらないとうことか。分かりました。あと、副市長さん。せっかくお酒の話があったので、市役所職員もそろそろ酒飲みはどうだい。いっぱい飲めとは言えねえだろうけど、そろそろ緩めていかないと、やっぱり世の中回らない気がするんだよな。検討してもらえないかな。

（笑い声あり）

○平石委員長 それでは、分科会としての賛否をお諮りします。議案第59号令和3年度土浦市一般会計補正予算（第9回）について賛成とする方は、挙手を願います。

（全員挙手）

○平石委員長 全会一致でございます。報告書に盛り込む御意見はございませんでしょうか。

(「なし」との声あり)

○平石委員長 そのほか、執行部から何かありますか。

○羽成商工観光課長 2点ほど、御報告がございます。先日、事前委員会のほうで内田委員からお話のありました日立建機の研究開発機能が集約される件につきまして、情報提供がございます。新聞報道のとおり、神立にございます敷地内に、新たな研究開発拠点、エンジニアリング棟を新設し、研究開発機能を集約するものでございます。日立建機によりますと、県内外の研究拠点の集約によりまして建設機械の電動化、ICTに向けた商品開発を強化する狙いであるということでございます。この新棟建設によりましてホイールローダの開発機能が龍ヶ崎工場、それから兵庫県の播磨工場から集約されることとなるものでございます。こちらは、令和4年度中の稼働開始を目指すという計画でございまして、施設につきましては、地上6階建て、延床面積は2万6,000平米、建設費が約80億で、施設の収容人数は約2,700人ということでございます。5年後を目途に、400人から500人の従業員を新たに雇用する見込みであるということでございます。これに伴いまして、県からは本社機能移転強化促進補助金の対象として認定を決定したところでございまして、約7億1,000万円の支出となっております。それから、10月27日にエンジニアリング棟の地鎮祭が執り行われたところでございまして、本市では安藤市長が来賓として出席してございます。以上、簡単ではございますが、この度の経過概要でございます。もう1点が、既に皆様方には御案内いたしましたところでございますが、土浦産の常陸秋蕎麦を原料としました蕎麦焼酎「土浦小町」が今週月曜日、11月1日に発売となりましたので、改めて御案内申し上げます。この土浦小町は、常陸秋蕎麦の消費回復を目指し、農業公社のほうで企画したものでございます。今回、水戸市にございます明利酒類にて製造をしていただき、先月の14日に瓶詰めを行いました。当初1,400本の予定が、2,200本できあがりまして、飲み口も柔らかく香り高い焼酎に仕上がったと聞いてございます。販売につきましては、小町の館、個人酒店を始め、イオン、カスミなどのスーパーや銀座のアンテナショップのほうでも販売いただいております。販売価格につきましては、税込み1,500円となっております。是非、お試しをいただきたいと存じますので、よろしく願いいたします。

○内田委員 農協は酒類やってないんだっけか。

○佐藤産業経済部長 JAさんには、ちょっと今回はありませんで。

○内田委員 分かりました。

○柳澤委員 なかなか旨かったよ。芋と麦の中間だな。

○内田委員 余計な話だけど、土浦で乾杯するものがないんだよ。醤油やコカ・コーラで乾杯ってわけにもいかないし。

○平石委員長 私も帰りに買っていきたいと思います。それでは、慎重なるご審議を頂き、お疲れ様でございました。これで分科会を閉会します。